

女の一生 (1949)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 101分

初公開日 1949/01/25

【解説】

徳永直のプロレタリア文学『ひとりだち』を、八住利雄と水木洋子が脚色し、亀井文夫が監督。戦後における女性の労働問題を、硬派なタッチで描いた作品。

印刷所で働く陽子は、病気がちの父親と幼い弟妹を養うため、給料のうち月に1500円を実家に渡していた。彼女は同じ職場で働く周平と結婚するが、実家のため、また自分のために、仕事を続けていた。しかし職場に新しい機械が導入されることになり、人員整理が始まってしまう。父親が仕事をクビになったため、さらに仕送りを500円ほど増やさねばならない。さらに子供を妊娠した陽子は、夫の周平から仕事を辞めてほしいと言われる。陽子は子供を堕ろすことを決意し、薬を飲むのだった。

【クレジット】

監督 亀井文夫

製作 伊藤武郎

井手俊郎

原作 徳永直

脚本 八住利雄

水木洋子

撮影 宮島義勇

美術 安倍輝明

音楽 飯田信夫

出演 岸旗江

沼崎勲

志村喬

三島雅夫

毛利菊枝

千石規子

田中栄三

有木三太

出雲八重子

若木悦子

花沢徳衛